

まつはし 松橋遺跡

遺跡番号 平成11年度登録
調査回数 第1次
所在地 村山市大字名取字松橋
北緯・東経 38度30分03秒・140度22分15秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）
調査面積 4,200㎡
現地調査 平成22年5月17日～9月26日
調査担当者 氏家信行（現場責任者）・高橋敏・千田一志・佐藤智幸
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・中世
遺構 掘立柱建物跡・井戸跡・土坑・溝跡・柱穴等
遺物 土師器・須恵器・陶磁器（文化財認定箱数：6箱）



図1 遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

遺跡は、村山市東部に位置し、村山市役所から北西へ約500mの名取地区の松橋集落の自然堤防上に立地する。現況は畑地・果樹・宅地で南側を市道浮沼名取線が西側を市道裏田線が走る。

遺跡は、平成11年度に山形県教育委員会によって登録され、平成21年度に実施された試掘調査の結果、溝跡や柱穴が検出され、土師器などの遺物が出土したことから、発掘調査が必要と判断された。

今回の調査は、東北中央自動車道（東根～尾花沢）の建設工事に伴う緊急発掘調査として行った。

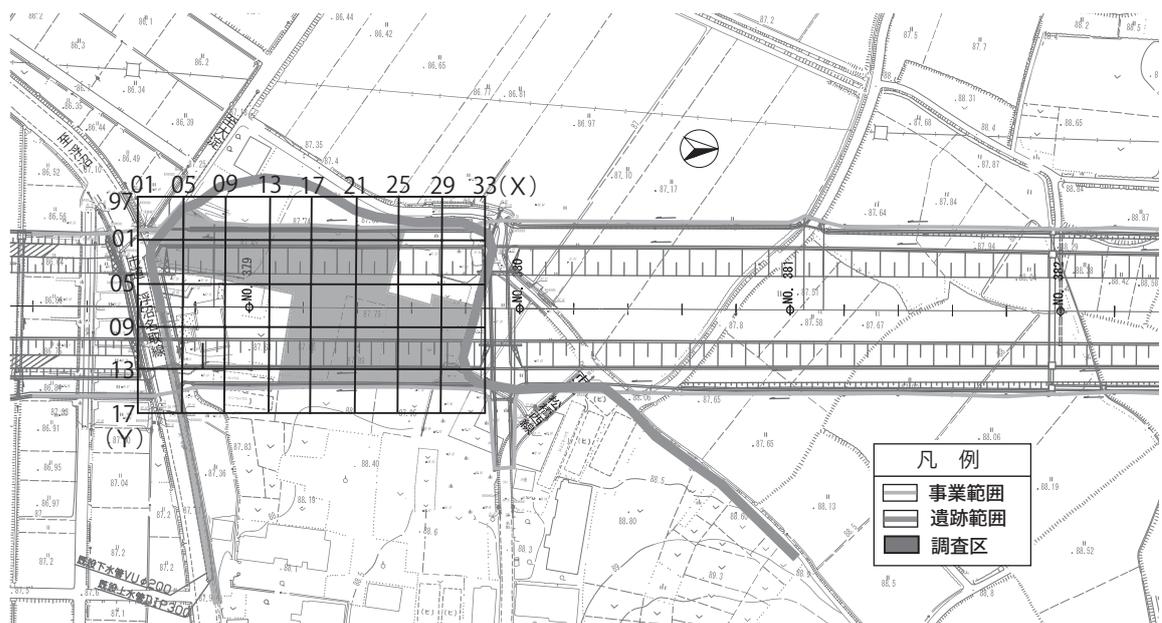
調査は、事業実施範囲の宅地部分を除く約4,200㎡について行った。工程は、重機を使用して表土を掘削した後、土を削る遺構検出作業、そして、遺構精査と併行して写真撮影や図面作成などの記録作業を進めた。

遺構と遺物

調査では、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡、柱穴跡などが検出された。

建物跡は、4棟確認された。2間×4間の規模で、北と南に^{ひさし}庇をもつもの。同じく2間×4間の規模で西側に庇をもつもの。この2棟は、L字型に配置されることから同時期の建物と考えられる。その他、倉庫と思われる2間×3間の中央にも柱穴をもつ総柱の建物跡や溝に囲まれた建物跡がある。そして、塀と考えられる柱列跡も庇を持つ建物の南側に検出された。

井戸跡は、12基確認された。全て素掘りのもので、開口部が広く、底面が狭くなるものと開口部と底面の広さがほぼ同じになるものが認められ、その形態の違いから平安時代のもものと、中世のものがあると考えられる。中には、ほぼ完形の土器が出土したものの、埋める際に石



調査区概要図 (S = 1:2,500)

を投げ込んだ様相を示すものも検出された。また、井戸跡の覆土からは、火山灰が検出されている。この火山灰は、青森県と秋田県の県境にある、915年に噴火した十和田火山灰の可能性がある。

土坑には、焼土と共に多くの土器片が出土したものがあり、埋め戻す際に破損した土器を焼土とともに廃棄したと考えられる。

溝跡は、南北方向と東西方向に延びるものが10条ほど検出された。調査区を南北に走る溝跡からは、中国の龍泉窯所産の青磁が出土している。

遺物は、平安時代の土師器や須恵器などが出土したが、土師器が大半を占め、須恵器は僅かである。土師器は赤褐色の素焼きの土器で、坏や高台付坏、甕などが出土し、墨で文字の書かれた墨書土器も見つかった。

須恵器は、窯で焼かれた灰色の土器で、坏や甕の破片が多く、壺の底を硯に転用したと思われるものも出土している。

まとめ

今回の調査では、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡などが検出され、土師器、須恵器、磁器などが出土した。出土した土器の底部の切り離し技法や器形、火山灰などから9世紀後半～10世紀前半頃の平安時代の遺跡と、龍泉窯産の青磁片から15世紀頃の中世の集落跡である

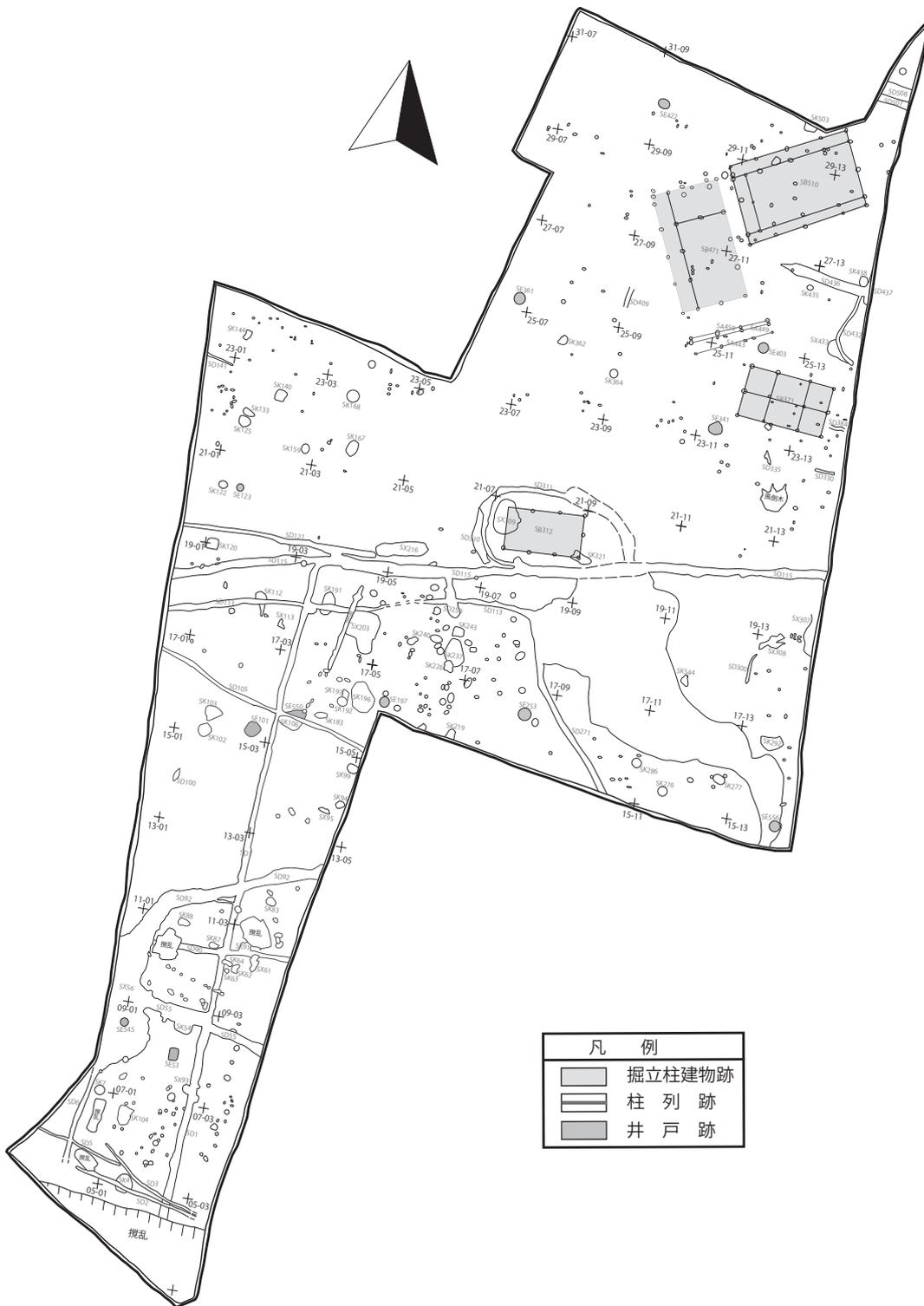
ことが明らかになった。また、溝跡や井戸跡が多く見つかったことから、豊富な水を利用して人々が生活を営んでいたことが窺える。但し、今回の調査区では、竪穴住居跡が検出されなかったことや、主な遺構の集中区域から集落の中心は今調査区の東側にあると考えられる。



調査区全景 (北から)



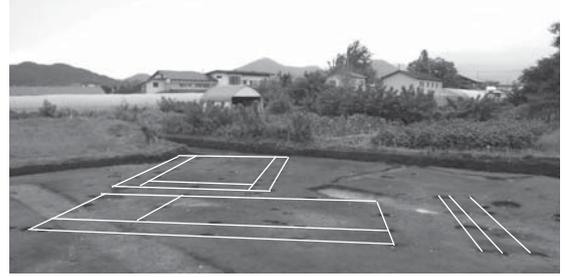
記録作業風景 (北から)



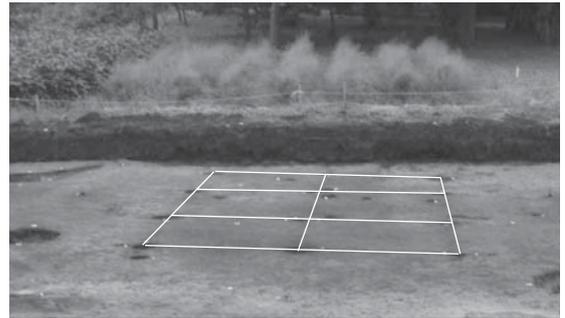
遺構配置図 (S = 1:500)



遺跡全景（南から）



庇をもつ建物跡（南西から）



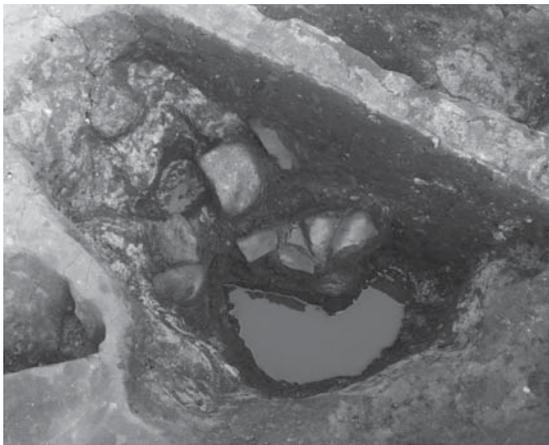
2間×3間の総柱の建物跡（西から）



火山灰が堆積した井戸跡（東から）



溝が巡る建物跡（北から）



石を入れて埋めた井戸跡（北から）



土坑の遺物出土状況（北から）